

管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

# 日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

内閣総理大臣 安倍晋三 様  
防衛大臣 稲田朋美 様  
米国大統領 バラク・オバマ 様  
米国次期大統領 ドナルド・トランプ 様  
四軍調整官 ローレンス・ニコルソン 様

オスプレイ飛行再開に強く抗議し、沖縄の米軍基地から発生する  
あらゆる危険を撤去することを強く求めます。

私たちは日本聖公会に連なる者として、主イエス・キリストの教えに従い、すべてのいのちが尊ばれる社会の実現のために祈り活動しており、この度の米軍の新型輸送機オスプレイ飛行再開に強く抗議し、また沖縄のあらゆる危険を撤去することを求めます。

2016年12月13日(火)、オスプレイが沖縄県名護市安部海岸に墜落し、また同日、普天間飛行場に別のオスプレイが胴体着陸しました。しかし、事故が起きてわずか6日後の12月19日(月)、オスプレイの飛行訓練が再開されました。事故の詳しい内容説明や原因究明もなく、また再発防止のための安全対策なども全く示されることなく、オスプレイの飛行訓練が再開され、沖縄の空を飛んでいます。米軍のやりたい放題な軍事訓練に、日米両政府、またその関係者の方々はどのようにお考えになっているのでしょうか。オスプレイの飛行訓練は、墜落したバラバラの機体を目撃した沖縄県民の不安と恐怖、憤りを募らせています。

2016年12月14日(水)、安慶田光男沖縄県副知事がローレンス・ニコルソン在日米軍沖縄地域調整官と会談した際、ニコルソン氏は「パイロットは住宅、住民に被害を与えなかった。感謝されるべきだ」と発言しました。これは本末転倒な発言です。日本政府は、自衛隊も米軍基地も、住民の生命、財産の安心、安全のためにあると述べています。それが被害を与えるような存在だとニコルソン氏は認めているのであり、日本政府の主張とは異なります。沖縄の住民に不安や恐怖を与える米軍基地は、即刻撤去すべきです。それとも、実際の被害、目に見える被害がなかったのだから「感謝しろ」と言うことでしょうか。実際の被害、目に見える被害はこれまでも何度も起こってきました。そして、目に見えない被害、心の被害もまた同じように繰り返されています。米軍による事故や事件がいつ起こるのか分からない不安や恐怖をいつも持ち続けたいいけないのは、被害以外の何ものでもありません。

このような状況が何度も繰り返されている中で、公明党の山口那津男代表は「今回の原因は機体そのものに内在するものではない。空中給油を当面停止し、それ以外は再開するという(米軍の判断を認めた)政府の評価は妥当だ」と言い、またある専門家は「空中給油を行わないのであれば、飛行再開自体は問題ない」と言っています。でも、2017年1月6日から空中給油も再開されました。事故の原因究明も安全対策も無しに、オスプレイの飛行も空中給油も再開です。

沖縄県民の安全・安心、平和、命は他の地域に住む人々よりも軽いのでしょうか。飛行再開に際して、「沖縄を何だと思っているのか」「また平気で飛ばすんだ。命が軽視されている」「日本政府は自分たちさえよければそれでいいのか。沖縄のことをよその国の様にしか考えていないのではないか」という失望と怒りの声に、私たちも強く共感しています。

このようなことから、私たちはオスプレイ飛行再開に強く抗議し、また米軍基地から発生する沖縄のあらゆる危険を即時撤去することを求めます。

2017年1月18日(水)

日本聖公会正義と平和委員会